

班員 佐藤悠高 川崎なごみ
杉本愛佳

指導者 春田かおる先生
コーチ 小野雅史様

研究の動機・目的

私たちの暮らしをより良くするためには、私たちの街自体がより豊かになるべきだ。
延岡の歳入額を増やす＝延岡の経済発展になると考え、どのような取り組みをすれば歳入額を増やせるのかを調べる。

定説

財政力指数

基準財政収入額を基準財政需要額で割った数値の過去三年間の平均値

4月お小遣い5000円、けど今月6000円使いたいとき
 $5000 \div 6000 = 0.83333 \dots \approx 0.83$
5月お小遣い5000円、けど今月9000円使いたいとき
 $5000 \div 9000 = 0.55555 \dots \approx 0.56$

つまり、財政力指数が大きいほど経済に余裕があり、財政力指数が小さいと、経済に余裕がない。

財政力指数が1を上回ると普通交付金は支給されない。自治体の財政力指数は、0.7～0.8が理想。使いたい金額の超えた分は、交付金が支給される。

研究方法

他自治体の財政力指数を調べる



延岡と比較する



延岡より財政が潤っていたら、何がどう違うのかを調べる。



↑の結果を延岡にも取り入れられそうか検討する



延岡にも取り入れるよう提案する

必要な道具

・PC



参考文献

○Chat GPT ○延岡市・周南市ホームページ ○財政力指数について ○パフェット・コード ○JR九州ホームページ

<https://www.city.nobeoka.miyazaki.jp/uploaded/attachment/17546.pdf> (←延岡財政状況)

仮説

延岡と似た自治体を財政力指数を用いて延岡と比較して、何が延岡に足りないのかを調べれば、経済発展のために延岡が取り組むべき課題が見つかるのでは。



結果

周南市の財政力指数0.76～0.82

延岡市の財政力指数は0.46

→周南市の方が財政状況が良い。

税収内訳	周南市	延岡市
個人分	29.5%	29.8%
法人分	14.7%	9.3%
固定資産分	46.5%	42.5%

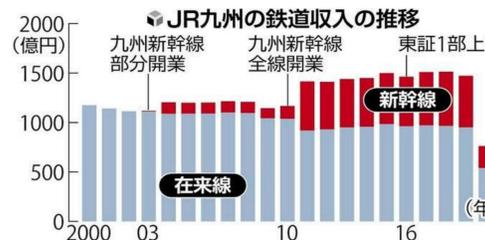
上記の調査結果より、延岡の法人分と固定資産分の割合が低いことがわかる。

考察

結果から、企業数が周南市との差を埋める要因になると予想。(法人＝会社、固定資産＝工場など)

交通面:延岡市に新幹線を作るべき!

交通面において延岡市と周南市を比べたところ、あまり優劣の差を感じなかった。その中で新幹線の有無が大きな差だと考えた。

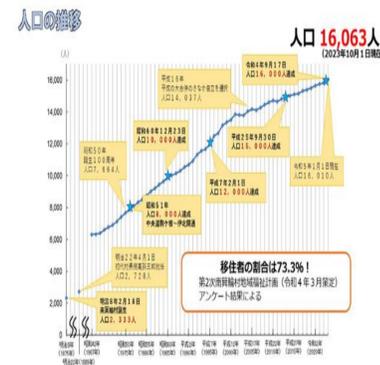


施設面:子育てに特化した市にし移住者を増やす!

子育てに特化した街作りを行い、働く母親が安心して子どもを産み、育てられる環境を充実させることが移住者を増やすことにつながると考えた。

人が増えれば経済もより回る!

長野県南箕輪村 / グラフ → 昭和42年～令和2年までの人口推移



謝辞

私たちの研究に関わってくださった先生方、コーチの皆様本当にありがとうございました。